

平成22年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 シャコ

学名 *Oratosquilla oratoria*

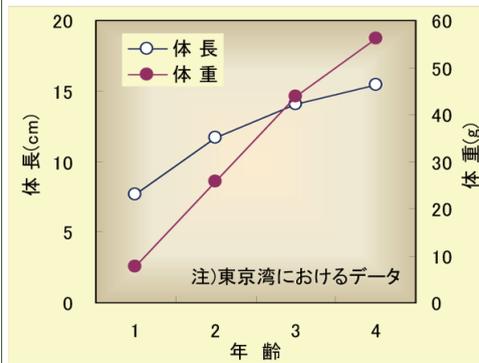
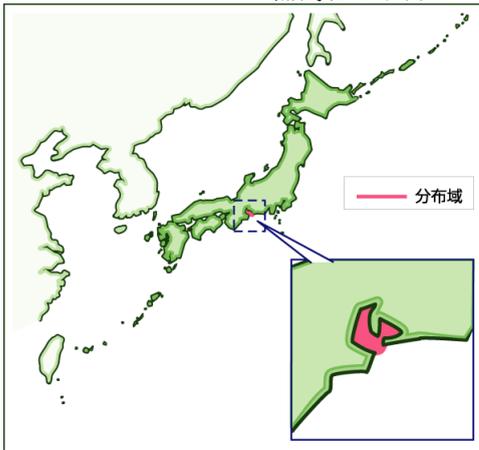
系群名 伊勢・三河湾系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命: 3歳(本系群の詳細は不明)
 成熟開始年齢: 1歳
 産卵期・産卵場: 5～9月が産卵期で年2回(5月と8月)の産卵ピークが存在、産卵個体は、春季には伊勢・三河湾内のほぼ全域に分布し、特に湾口部および知多半島西岸に多い
 索餌期・索餌場: 周年湾内全域
 食性: 伊勢湾については不明、東京湾では2～3cmの小型個体では魚類を摂餌する比率が高く、4～12cmで貝類の比率が高まり、12cm以上の大型個体では多毛類、甲殻類も摂餌して食性が多様
 捕食者: 伊勢湾においては、マアナゴによる捕食が確認されている、その他の捕食者は不明

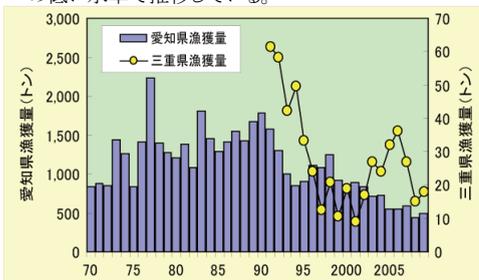


漁業の特徴

伊勢・三河湾におけるシャコは、他海域と同様に小型底びき網による漁獲がほとんどであり、他には刺網と定置網で若干漁獲されている。

漁獲の動向

愛知県における1970年以降の漁獲量は441～2,238トンの範囲で変動し、数年周期で増減を繰り返していたが、1999年以降は1,000トンを超えなくなった状態での一方的な減少が続いている。特に2005年以降の漁獲量は600トン以下の水準となり、2008年、2009年では400トン台となった。三重県の漁獲量も近年減少が続き、1996年以降は9～36トンの低い水準で推移している。

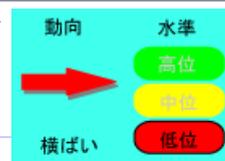


資源評価法

近年、漁獲努力量の減少が認められるため、小型底びき網のCPUEの経年変化を資源量指標値とする。特に、伊勢・三河湾におけるシャコ漁獲の大部分を占める愛知県の主要水揚げ港を根拠地とする小型底びき網漁船によるシャコCPUEの推移を基に資源状態を判断した。

資源状態

伊勢・三河湾全体での漁獲量は最低の水準にある。資源量指標値であるCPUEは2000年台に入ってから以降、依然として低い水準で推移しており、資源水準は低位である。また、CPUEに明瞭な増加・減少傾向が認められず、2009年の値も前年とほぼ同程度であることから、動向は横ばいと判断した。



管理方策

本系群のシャコ資源は低水準の状態が継続しており、漁業による管理が困難な環境要因、特に貧酸素水塊の規模拡大の影響による資源の低水準が続いている可能性が指摘されていることから、限られた資源を持続的かつ有効に利用する方策が必要である。本系群は、水産庁が推進する資源回復計画の対象種に指定されているが、資源回復のためには、小型シャコの保護と未成熟個体の放流による産卵親シャコ量の確保が必要であることから、小型個体の漁獲を避ける漁具についての検討を継続して行う必要がある。

資源評価のまとめ

- 近年の漁獲量の推移等から判断して、伊勢・三河湾のシャコ資源は低水準の状態が継続している

管理方策のまとめ

- 環境要因による資源の低水準が続いている可能性がある
- 低水準期の限られた資源を持続的かつ有効に利用する方策が必要である
- 漁具の改良等により、小型個体の保護をより積極的に推進する必要がある
- 産卵前の親魚を保護することにより産卵水準の引き上げを図る方策が必要である

執筆者: 黒木洋明・柴田玲奈・片山知史

資源評価は毎年更新されます。